

強い農業・担い手づくり総合支援交付金の取組事例(R2年度:事業実施主体:白山農業協同組合) (石川県)

取組の概要

対象品目：水稻（受益面積：1,141ha）
成果目標：高温耐性品種の作付割合を4%以上増加
基準 11.9%（H30）
目標 16.0%（R4）
多収性品種の作付割合を6%以上増加
基準 15.2%（H30）
目標 21.3%（R4）
導入施設等：種子種苗生産関連施設、播種機・パレタイザー設置 他



白山市井口地区

ポイント

【取組の主題(テーマ)または課題】

JA白山は、2年3作(水稻・大麦・大豆)を推進しており、また、県内最大の種子(水稻・大麦・大豆)の生産地である。

地域においては、農家の高齢化の進行により離農者が増えていることに加え、管内に2箇所ある育苗センターでの苗生産が需要に対応出来ていないことから、苗の生産を担い手が行うなど担い手への負担の集中が進んでいる。

また、新品種の生産拡大や密苗等の技術に対応する必要性があり、生産者の確保と生産性の向上が課題となっていた。



【産地としての持続性を確保し、収益力を向上するための方策】

2箇所あった育苗センターを1箇所に集約し、需要に応じた規模の育苗センターとして整備することで、効率的な苗生産と種子農家の負担軽減を実現する。

推進体制

生産者(担い手)
育苗委託による
労力軽減

経営規模拡大
実需への対応
農地保全

育苗委託

指導・助言

白山農業協同組合
育苗センターの一元化

市・普及センター

指導・助言

地域における独自の取組

- ・新品種（ひゃくまん穀等）、新技術（密苗等）の栽培技術指導・普及
- ・農地中間管理機構を利用した担い手への農地集積

取組成果

【事業実施による直接効果】

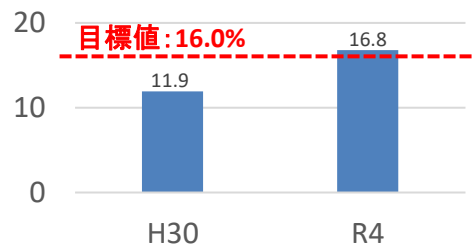
- ・苗生産の生産性(低コスト化)の向上
- ・種子農家の負担を軽減し種子生産に集中

【事業実施による間接効果】

- ・多くの品種(高温耐性、多収性など)や省力化技術(密苗など)への対応が可能
→ 高温耐性・多収性品種の作付けの拡大
→ 省力化による生産性の向上

大麦大豆生産の拡大
担い手の規模拡大
農地保全

高温耐性品種の作付割合(%)



多収性品種の作付割合(%)

